

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

日本経済新聞より

富士重、大連に合弁工場

富士重工業は中国で乗用車生産に乗り出す。中国大手の新興メーカー、奇瑞汽車（安徽省）と大連市に合弁工場を建設する方向で最終調整に入った。2011年にも着工し、13年中の稼働を目指す。投資額は300億円前後の見通し。富士重の進出により日本の自動車大手が中国生産で出そろふ。世界の自動車大手が集まる世界最大の中国市場で販売競争も加速しそうだ。

日本企業では富士重とダイハツ工業を除く6社が中国で乗用車を生産しているが、合弁相手はすべて中国の老舗国有会社だった。新興メーカーとの合弁で乗用車を本格生産するのは日本企業では初めて。中国市場の拡大を映した新たな動きといえそうだ

大連市の悲願とも言える日系自動車メーカー完成車の工場立地がほぼ決定した。合弁の相手は、先に大連市への新工場設置を決めた中国新興メーカーの「奇瑞」で、この2社が50%ずつ資金を出し合い、大連市が準備した工業開発区に工場を建設する計画。重慶など中国の多くの都市との誘致合戦に勝利したことになる。

「奇瑞」は、他の日本自動車メーカーが合弁している一汽や東風などの老舗国有自動車会社とは違い、新しくできた中国の自動車メーカーで、QQという安くて小さな車を大ヒットさせ今は、中国国内で販売シェアトップ10に入る優良自動車メーカーだ。インドやベトナムへの自動車輸出も行っており、中国では輸出台数NO1のメーカーとしても有名。ロシア、ウクライナ、イラン、エジプト、インドネシア、ウルグアイなど6カ国に工場を持ち海外進出にも積極的だ。

最近の大連市で最も成長しているのが自動車産業。2010年1月から9月までで、一定規模以上の自動車製造企業の主な事業所得は、140.29億元となり、昨年と比べて80.3%も増加している。

現在、大連市には自動車関連企業が百社以上立地している。2007年にフォルクスワーゲンと中国の一汽自動車との合弁会社が大連にエンジン工場を作った。2008年にはアメリカの自動車変速機メーカーボルグワナーの立地が決定した。2009年には中国新興メーカー「奇瑞」が、大連市待望の完成自動車工場の建設を発表した。

これは、大連市の地道な誘致活動が功を奏したものだ。アメリカ・シカゴ、ドイツ・ハンブルグ、日本・東京など、自動車産業誘致説明会を世界の自動車・自動車部品企業に対して行い、着実に誘致を進めてきた。

そして、今回、日系メーカー「富士重工」の立地もほぼ決定した。そのほかにも欧米・日本の自動車部品のメーカーが大連への工場建設を検討しており、この富士重工決定によって日本の自動車部品メーカーが、こぞって大連進出を決定することが期待されている。

また、現在ある自動車部品関連の企業も工場の増設などを行っている。大連開発区の老舗日系企業・日本電産は、自動車搭載用のモーターの新工場と研究施設を増設することを昨年の夏に発表した。

大連市も受け入れる用地を広げるため、自動車産業センターとして、現在の保税區を160キロ平方メートルに拡大。自動車産業区をはじめ、保税物流加工区などとする。計画では、この10年以内に自動車の生産量を70万台に増加し、30万人の住民を支える自動車産業都市となる想定だ。

自動車産業は、すそ野が広く、様々な業種へ影響を及ぼす。また、大連市が得意なITや物流にも大きな恩恵をもたらすものだ。この壮大な構想が、実現するかどうかは、今後、大連がどこまで発展できるかによって、大きな鍵となることは間違いない。